

# 主任コラム6月号

主任 澤井 良子

6月に入り、気候もよく外遊びが気持ちよい季節になりました。小さいクラスの子はお散歩に行ったり、大きいクラスの子は園庭で虫探しや、運動遊びを楽しんでいます。

各年齢のお部屋の様子を見にいくと、午睡後のりす組では、基本的な生活習慣の中にある「排泄の後のズボンを履く」ということでは、それぞれの発達に合わせて保育士に見守られながら履いていました。長ズボンに片足を入れ足の指を裾からだそうとするまでの姿を、周りの大人が手を出さずに見守るという事はなかなかの根気がいるものです。ですが、個々によって発達が違うので、どこまでできるかを理解し子どもが望んだ時に（応答性＝頼まれたらやってあげる）必要な時に必要な援助を周りの大人がすることが大切だと思いました。



うさぎ組では、給食の時間につけるエプロンを子ども同士でつけてあげる姿がありました。自分では付けられない…と困っている子が周りの子に助けてもらうことで、自分の欲求をかなえてくれた人に対して、安心や親しみ信頼感を抱くようになり人との関わり心地よさを感じます。また、助けてあげた子は、自己を十分に発揮することができたことで自己肯定感が育まれます。言葉は交わされなくても、子ども同士の思いが通じ、気持ちを察するという姿に2歳児ならではの「他者への仲間意識」という姿がみられると感じました。



幼児クラスでは、給食のセミバイキングで保育士に自分の食べられる量を子ども達が伝えていますが、デザートなどは年長見のお当番の子が「大きいの？小さいの？1つ？2つ？」と丁寧に聞いてくれる姿をみかけます。また、ピーステーブルでも年長見以外の子が喧嘩をした場合でも、年長見が年中見の喧嘩の仲裁に入る姿や、喧嘩ばかりでなく年少見が談話やにらめっこなどの和みの場所として使っている姿もみかけます。子ども同士が話し合いをし、言いたいことや思いを伝え、相手の思いに気付いていくことも大事だと思います。ピーステーブルを導入した頃に比べて、子ども同士で話し合っている姿が増えてきたようにも感じます。

6月からは保育参加が始まります。例年とは違い実際に保育の現場に保護者の方に入って頂き、子ども達の日常での姿や保育の流れ、子ども同士の関わりなどをみていただけたらと思います。また、子ども達の園での関わり方や、疑問に感じられた点などありましたら、職員や園長、私に気軽にお声がけ下さい。